

キャノングローバル戦略研究所 地球温暖化国内シンポジウム
日本の地球温暖化抑制の 2050 年ビジョンとその実現
~BEYOND PARIS - VISION OF 2050 AND GETTING THERE FROM 2030 TARGET~

2015 年 4 月、政府は、2030 年までの日本の温室効果ガス排出目標を 2013 年比で 26%削減する目標案とそのベースとなるエネルギー構成と電源構成を公表しました。ボトムアップ方式で積み上げたこの目標値は、その実現可能性が強調されています。しかし、世界の地球温暖化抑制目標実現のための日本の貢献と長期目標との整合性については必ずしも明確になっていません。

本シンポジウムでは、国内で先進的に温暖化問題に取り組んでいる専門家をお迎えし、

- ・ 2008 年の G8 サミットで提起された「2050 年に 2005 年比で 80%減」目標を日本は堅持するのか？
- ・ その目標を堅持する場合、今回の「2030 年に 2013 年比で 26%減」という目標案では、2008 年の G8 サミット案を着実に達成することは可能なのか？
- ・ そしてどのように達成を可能にするのか。

と言った疑問に焦点を当てながら、2050 年の地球温暖化抑制ビジョンのあり方とその実現方法について議論を行います。

日時：2015 年 7 月 23 日（木） 14:00-18:00

会場：新丸ビルコンファレンススクエア 901 会議室

東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル 9F

http://www.marunouchi.com/page/access/access_shinmaru.html

交通のご案内：

- JR 東京駅（丸の内北口側）
- 東京メトロ 大手町駅（東西線・千代田線・半蔵門線・三田線）
東京駅（丸ノ内線）

プログラム

1. 14:00-14:10 <開会挨拶>
 キャノングローバル戦略研究所 理事長 **福井 俊彦**
2. 14:10-14:30 <基調講演>
 日本の地球温暖化抑制の 2050 年ビジョンとその実現
 キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 **湯原 哲夫**
3. 14:30-16:10 <セッション1>
 日本の 2050 年ビジョン（GHG 排出、経済社会、エネルギーなど）のあり方を、国際公正性・持続可能性などの視点から議論する。
 ポイント 1-1 経済性、公平性、持続可能性、実現可能性によるビジョン解析
 ポイント 1-2 世界の温暖化抑制に日本が求められる「真の貢献」は何か？
 - ・ **段 烽軍** キャノングローバル戦略研究所 主任研究員
 「Towards and Beyond Paris 日本のビジョンと温暖化抑制への真の貢献」
 - ・ **秋元 圭吾** 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構（RITE）
 システム研究グループ グループリーダー・主席研究員
 「国際公平性の視点からの温室効果ガス排出削減目標の評価」
 - ・ **増井 利彦** 国立研究開発法人 国立環境研究所社会環境システム研究センター
 （統合評価モデリング研究室）／室長
 「日本における 2050 年の温室効果ガス排出量を 80%削減する経路の検討
 —DDPP における日本の分析結果から—」
 - ・ **松尾 雄司** 一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット
 需給分析・予測グループ 兼 戦略研究ユニット 原子力グループ 研究主幹
 「2050 年の低炭素社会実現に向けた課題と日本の役割」
4. 16:10-16:20 <休憩>
5. 16:20-17:50 <セッション2>
 技術、経済、国際協力の視点からビジョン実現について議論する。
 - ・ **小宮山 涼一** 東京大学大学院工学系研究科レジリエンス工学研究センター准教授
 「再生可能エネルギーと電源ベストミックス」
 - ・ **森 俊介** 東京理科大学 理工学部 経営工学科 教授
 「世界と長期視点から見た温暖化対策の評価」
 - ・ **氏田 博士** キャノングローバル戦略研究所 上席研究員
 「国際的なエネルギー環境政策と途上国への技術支援」
6. 17:50-18:00 <総括と閉会>